

「水曜サロン with 赤堀会長」第4期 第14回（通算58回）

児童のクリエイティビティを育む授業の実践について

1. 内容

- 1.アナログの大切さ
- 2.なぜ、図工にICTなのか
- 3.実践事例

2. 所感

実践事例の紹介は、引き込まれ、もっと見ていたい程でした。児童のクリエイティビティは先生のクリエイティビティから育まれる、私の感想であり、感動でした。そして岩本先生の凄さはアナログとICTのマリアージュではないでしょうか。子どもたちの端末の中のアイデア、プログラミングが、図工とのマリアージュで、教室、校舎、校庭という3次元のキャンバスで、自分たちのアイデア、工夫が動きのあるアートに変わるのです。

質疑の時間ですが、まずは、創造性の蓋をとると、子どもたちの創造性が表に出てきて、クラスメイトとのコラボレーションで凄い作品が出来て、エンjoyできることに気づいたという赤堀会長の言葉が印象に残りました。次に、別のコミュニティに属するメリットはという質問に対して、学校以外のコミュニティに属することで、自分（先生本人）の世界が広がり、それが子どもたちの世界を広げることになる。岩本先生の溢れんばかりのクリエイティビティの源泉を理解しました。コミュニティのメリットのもう一つが、様々な教具を借りることができること。予算が大きい公立学校では重要だと。また、自分ではアイデアが思いつかない子への指導についての質問に対して、隣の子や友達の様子を見に行くタイミングを助言の機会と考えている、そのままマネする子どもはいない、見たもの体験したものが組み合わせさせてオリジナルが生み出されるから。更には、他の教科とのコラボレーションについてという質問に対し、全力で自分が楽しむこと、教室で教材研究をすること、構内を回って、他の教科では何をやっているかを確認すること。明確でした、他の教科とのコラボレーションが生まれる秘訣。最後ですが、実践を創り上げるときに大事にしていることはという問いに対して、まず自分が楽しいか、そして直感的に使えるかどうか。考える間もなく瞬速回答……。岩本先生、本日は、終始笑顔で、迷いがなく、まさに自分が楽しんでいる姿を見せていただきました。誠にありがとうございました。

以上